

## 高等学校 消費者教育

### 「消費者市民社会」「エシカル消費」についての授業

奈良県消費生活センターでは、平成26年度より高等学校で、「消費者市民社会」「エシカル消費」に関する授業を行っています。

令和元年度は、4つの高等学校で合計19回の授業を行い、725名が受講しました。

学校名	学年 教科	受講者数	授業日	テーマ・内容
県立五條高等学校	1年生 家庭科	8クラス 270名	11/26、28	消費者市民社会
奈良育英高等学校	2年生 家庭科	8クラス 222名	1/21、23、24	エシカル消費
県立添上高等学校	1年生 家庭科	6クラス 202名	1/30、2/12	消費者市民社会
県立青翔高等学校	2年生 家庭科	1クラス 31名	2/19	消費者市民社会・エシカル消費（2時間）



<授業風景 県立五條高等学校>

#### テーマ1：消費者市民社会

「買い物で世界が変わる？消費者市民社会について考えよう」

#### 内 容：

ニセモノを買うメリットとデメリットを考えてみよう、買い物はお金の投票  
フェアトレードのチョコレートの試食  
カカオ生産の現場の映像上映「チョコレートの真実」(ACE)  
フェアトレードとは？フェアトレード商品の紹介、寄付付き商品の紹介、  
地球環境のことを考えた行動、グリーンコンシューマー、応援消費、地産地消  
SDGsについて、消費者市民社会とは、  
相談することで社会をかえるきっかけなる、自分にできることを考えよう

#### 授業の流れ：

- ◆ 個人の買いものが社会に影響を及ぼしていることを理解するために、高校生にとって身近な話題を取り上げて授業を展開しています。
- ◆ 最初に、世の中に売られているニセモノやコピー商品を取り上げ、個人や社会にとってのメリットとデメリットを考えます。個人にとってのメリットは考えやすいのですが、社会への影響は考えたことのない生徒が多く、自分たちの買い物行動と社会の関係に気づくきっかけとなることを意図しています。
- ◆ 次に、フェアトレードの取り組みを紹介しますが、ここでフェアトレードチョコレートとそうでないチョコレートの試食をします。さらに、カカオ生産の実態やフェアトレードの取り組みについての映像を見ます。自分たちが日常的に食べているチョコレートが、誰によってどのように作られているか知ることで、商品を手にしたときに作った人のこと、その背景も考えてみようと呼びかけます。
- ◆ フェアトレードだけでなく、買い物で応援する方法として、寄付つき商品、応援消費、地産地消などについて紹介し、さらに環境に配慮した行動についても取り上げます。そうすることで、自分にできることがある、すでに自分もやっていることがあると気づき、意識して行動するきっかけになるようにしています。
- ◆ 最後に、今日からできそうなこと、やってみたいことを書いて授業を終わります。
- ◆ 「消費者市民社会」という言葉の意味を説明するだけでは理解しにくいので、様々な具体例を提示し、見たり味わったり考えたりすることで、気づきが行動へと結びつくことを願って授業を実施しています。

生徒の様子：

- ◆ ニセモノと本物の商品を見せると、生徒はどちらが本物か見極めようとしています。またチョコレートの試食は、どの学校の生徒も大喜びで、授業に関心が向くようです。
- ◆ このテーマの授業を行うようになって5年になりますが、だんだんとフェアトレードについて知っている、マークを見たことがあるという生徒も増えてきました。
- ◆ 「消費者市民社会」という言葉はイメージしにくいのですが、身近なことだと気づいてくれているようです。

テーマ2：エシカル消費

「エシカル消費とは？～人や社会、環境に配慮した消費行動～」

内 容：

商品を選ぶ時の行動は？（期限表示と食品ロス）

エシカル消費の言葉の意味と日本人の考え方、行動スタイル

もったいない！を見つけよう（ワーク）

エシカル消費に関係のあるマークについて  
フェアトレードマークと仕組み  
フェアトレードのチョコレートの試食  
カカオ生産の現場の映像上映「チョコレートの真実」(ACE)  
寄付付き商品の紹介、  
SDG s について、消費者市民社会とは  
自分にできることを考えよう

授業の概要：

近年「エシカル」という言葉を消費生活の場面で耳にするようになりましたが、日本語にすると「倫理的」となり、「具体的に何をするのか？」と思います。

突然「エシカル消費」と聞いた生徒は意味がわからないだろうと考え、私たちが日頃からよくつかっている「もったいない」「おかげさま」の精神と一致すると話すと、身近なものと感じるようです。

さらに、社会のことを考えた企業行動として「三方よし」を紹介します。

これらの考え方は、国連の持続可能な開発目標 SDG s 世界の目標の精神と一致していることを伝えます。

日々の何気ない行動が社会に影響を及ぼすことに生徒が気づき、そこから行動に結びつくようにすることがこの授業の目的です。